



新酒の出来上がりを知らせる「酒林」(杉玉)の掛け替え作業が17日、飛騨市古川町であった。写真。掛替えたのは、古い町

### 新酒の味上々 杉玉掛け替え 飛騨

月の開業を予定している。配車センターや無線基地局などの設備投資に約1500万円を見込んでいます。同省中部運輸局自動車交通部旅客第2課によると、昨年度、3市内の福祉タクシー利用車数は1万1236人。一般タクシーを利用した障害者も多くいたと

みられることから、同課は「潜在的にも需要は多く、ビジネスとして成り立つと考えている。来年度以降も他地域でモデル事業を広げていきたい」としている。18日に名古屋市中区中部運輸局で、中田徹局長が3市長にモデル地域指定の認定書を手渡す。

並みが残る同町壱之町「渡辺酒造店」(渡辺久郎社長)と「蒲酒造場」(蒲茂太郎社長)の2軒。杉玉は、丸い竹のかごに杉の小枝をまんべんなく差し込み、球形に刈り込んだもので、直径約80センチ、重さ約70キログラム。2軒とも、午前10時から、酒造りをした蔵人らが、茶色になった今年の杉玉を緑の新品に取り換えた。

渡辺酒造店では、「冷え込みが厳しくなった10月20日から仕込み作業が始まった。今年は米が良く、例年

以上にフルティーでコクがある酒に仕上がった」と満足そうだった。

### 木曾川導水路の検討会が初会合

徳山ダム

5月に本格運用を始めた国内最大規模の徳山ダム(揖斐川町)の水を木曾川などに流す「木曾川水系連絡導水路」の事業監理検討会の初会合が17日、名古屋市の水資源機構中部支社で開かれた。機構側と愛知、岐阜、三重3県、名古屋市の担当者らが出席し、導水路の着工に向けて、環境への影響や事業費縮減などについて話し合った。

初会合では、工事着工までに、環境影響調査を実施し、「環境レポート」案をとりまとめ、導水路の現場